

2014(H26) 年 2 月 No.12

### 自主防災の基本

# 減災だより

被害をできるだけ小さくする活動

自助：自らの [ 命・家族・資産 ] は自ら守る  
近助：防災は [ 近所の助け合い ] が大切  
共助：自主防災は [ B 自治会 ] が自主防災隊

地域防災力強化に資する情報誌

発行: B 地区茅ヶ崎自治会 自主防災隊 (防災支援隊)

25 年 11 月に「防災支援隊」が発足しました。このため本号から、今までの「自助」

の情報誌から「自助」と「共助」の地域防災力強化の情報誌として発展させていきます。

## 地域防災力 (自助・共助) の強化に取り組みます

### 1、25 年度 11 月に「防災支援隊」が発足しました。

長年、「防災活動」は担当者が単年度で交代してやってきました。このため自治会自主防災隊規程の中で、特に、防災会議での必要事項の審議や意思疎通を図る点が課題になっていました。このことから継続的な防災活

動が望まれていました。

単年度で活動する「防災部」は従来通りの活動を継続して、「防災支援隊」は B 茅ヶ崎自治会 自主防災隊の下部組織として、防災の必要事項を周知していく。

(参考) 自治会自主防災隊規程 (運営)

第九条 隊長は随時、副隊長、班長、班員に対して、防災会議を招集できる。防災会議では必要事項を審議すると共に、お互いの意思疎通を図る。

2. 年一回以上は自主防災訓練を実施し、

防災意識の啓発・高揚に努める(ほかに必要とあれば非常食試食会、防災センター見学会、起震車体験など随時企画し、実施するものとする)。

3. 防災資機材を随時点検し、年一回は備蓄品倉庫の補充・整備を行う。

### 2、「防災支援隊」の目指す活動

自治会自主防災隊規程(運営)第9条に掲げている “ 防災会議では必要事項を審議すると共に、お互いの意思疎通を図る。”

このことに対して、具体的な防災課題を取り上げ、解決策を打ち出し、周知して地域防災力の強化を図っていきます。

### 3、25 年度 12 月に「防災支援隊」のメンバーが決まりました。

防災支援隊のメンバーを自治会から公募したところ次の方々が応募されました。メンバー 山下徳郎(36-9) 田中大(69-15) 平藤晃二(36-8) 成田健一郎(64-6) 小宮

広嗣(35-3) 武田隆夫(62-2) 篠田修(62-3) 岸秋夫(35-10) 岸智美(35-10) 中村雅澄(33-5) リーダは自治会が坂上良夫(38-20)を指名しました。

### 4、「防災支援隊」の活動概要

- ◆ 1～2 時間/月 程度の定例会議を開催する。
- ◆ 選定した防災課題を、優先順位を付け、解決策を導く。

- ◆ 解決策は、自治会へ提案し、審議決定後、広報する。
- ◆ 周知に関しては、その他の手段、方法を勘案していく。

### 5、防災支援隊活動の指針となる資料

茅ヶ崎市の「自主防災組織活動の手引」  
～地域防災力の強化のために～  
(2013 年 12 月)

藤沢市の湘南大庭地区  
防災計画  
地震対策編 2013 年版

その他必要な情報を収集する。

(被害をできるだけ小さくする防災(減災)の課題)

規約規程に記述されている“防災の必要事項”とは、具体的には、平常時に地震の被害を想定して、“その時”の対応の行動様式(対応のやり方)を決めておくことです。

この“その時”の対応の行動様式(対応のやり方)が白紙だと頭が真っ白になったりします。そして突然のあまりの状況変化に呆然状態になったり、何をすれば良いかも分からない空白の時間となります。

こうした状況を回避するため“防災(減災)課題”を掲げ、解決策となる行動様式(対応のやり方)を打ち出し、自治会へ提案し審議決定して、広報、講演などで周知徹底する。

### 自 助

1. 地盤について(「防災だより」No.8にて広報)
2. 耐震について(「防災だより」No.8にて広報)
3. 家具の移動、転倒、配置の対策について(「防災だより」No.8にて広報)
4. 防災用品の確保について(「防災だより」No.8にて広報)
5. 飲み物、食料の備蓄について(「防災だより」No.8にて広報)
6. 簡易トイレの用意について
7. 発災時の身の保護(シェークアウトの実践、在宅時)について
8. 発災の時、逃げる場所の特定について(在宅時)
9. 「避難する」決心をする時の条件について
10. 避難のため家を出る時の確認事項について
11. 発災時、「わが家はOK」の伝達方法(情報発信)について
12. 初期消火について
13. 安否確認について
14. 安否確認シートの保管場所について  
など

### 共 助

1. 避難所の小出小学校と滝の沢小学校の利用について
2. 発災の時、逃げる場所の特定(屋外)について
3. 各街区の被災状況を確認する方法と情報収集項目について
4. 被害を想定しその情報を伝達する訓練
5. 発災時、「わが家はOK」の伝達方法(情報発信)について
6. 発災時の身の保護(シェークアウトの実践)につい(25年度の訓練で実施)
7. 集会所(いっとき避難所)の安全の確認項目について
8. 集会所(いっとき避難所)の発災時に機能を遂行する備品について
9. 発災時、自主防災組織の職務割り、担当割りの「話し合い」での効果的な結論を導くための検討について
10. 安否確認について
11. 各種訓練について  
など